



大いなる

世界の動き

始まりぬ

父君のあと

継ぎし時しも

上皇陛下御製

『お伊勢参り』

横浜総鎮守伊勢山皇大神宮は、その名のとおりに伊勢の神宮に連なる神社である。元々、伊勢神宮は皇室の祖先神をお祭りし、広く庶民の信仰も集めるようになった。江戸時代には、庶民が旅行を楽しみおようになり、一生に一度は「お伊勢参り」に行きたいものだと言われているという。村々に「伊勢講」と呼ばれる仲間集団がつかられ、伊勢から来る御師（おんし）と呼ばれる神職が、神宮の話をして暦や神札を頒布していた。講の人びとは皆で旅費を積み立て、順番の回ってきた者が、近傍の何人かと連れ添ったりして、徒歩で神宮をめざした。

このような社会の枠組の中での形だけではなく、個人が突発的に旅立つ「抜け参り」や、数十年に一度群衆となって参宮する「お蔭参り」という現象もあった。伊勢参りをしたい、という願いは社会に広まっていたのであ

創建 150 年記念事業



伊勢神宮より譲与された御本殿（平成30年10月竣工）

る。

こうして伊勢の社も村々に勧請され、「神明社」「大神宮」などと称された。村の社には、八幡、稲荷、天神など様々な神様が祭られている。全国的にみると八幡が最も多いのだが、横浜では伊勢が一番である。江戸時代の横浜市域には八百三十九の社があり、うち百四十三が伊勢系の社だった。およそ中学校区に一社という密度である。その中の一社が場所を移し伊勢山皇大神宮として明治三年創建された。横浜は歴史的にも伊勢と縁が深い。

さて、講での積立金や村人からの御祝儀を旅費にしていたこともあり、旅人たちは会計報告用の帳面を付けたり、日記をしたためたりした。それらは、現在の横浜市域でも相当数が今に伝えられている。本号作成にあたり確認してみただけでも十数通があり、全てが江戸時代終わりから明治にかけてのものである。谷本村（青葉区）、野島浦（金沢区）、上川井村（旭区）等の旧家で道中日

創建 150 年記念事業
「お伊勢参り」の錦絵



『伊勢参宮 宮川の渡し』 歌川広重



『伊勢参宮略図』 歌川広重

記や出納帳が残されている。

日記を読むと、旅立ち初日には、村の鎮守に旅の無事を祈り、皆に見送られていざ出発！その後は日付順に昼食場所、途中参拝した神社、宿泊地、料金などが丹念に記されている。雨の日も歩き続け、十数日かけて伊勢に到着。馴染みの御師に出迎えられ宿へと案内される。翌日に伊勢の外宮、内宮の順に参拝して、太々神楽（だいだいかぐら）を奉納する。これが定型である。

参宮の後も旅を続け、奈良を経て四国の金毘羅に渡り、引き返して大阪京都を見物、帰路は信州を通り碓氷峠から関東平野を南下する。横浜帰着まで五十日前後の長旅である。これだけの長期間自宅を留守にし、仕事を休み、旅をする意味は何だったのだろうか。

お伊勢参りをする人は、二十代もしくは五十歳前後の男性が多かったようである。一人前になるとする若者もしくは家督を譲る初老者である。日常生活から離れて

創建150年記念事業
「お伊勢参り」の錦絵



『伊勢御遷宮参詣群集之図』 玉蘭齋貞秀



『伊勢名所御蔭参の図』 玉蘭齋貞秀

見知らぬ土地を自分の脚だけを頼りに歩く。伊勢に着くことだけが目的ではなく、参宮すると同時に自分自身を見つめ直すという精神的な効用も大きかっただろう。

明治になって鉄道や汽船等が整備されると徒歩のお伊勢参りは徐々に減少し、今では新幹線なり高速道路での移動が当たり前となった。しかし、昔の旅人にならって歩いた人もいて、その経験は得難いものであったと語っている。そこには、現代の私たちが見失ってしまったという大切な何かがあるに違いない。

ところで伊勢山皇大神宮では創建百五十年の記念として、令和元年秋に徒歩でのお伊勢参りを計画している。創建当時、明治三年頃の人たちの参宮体験を試みよう、という歴史的な試みである。

創建 150 年記念事業
「お伊勢参り」の錦絵



『東海道五十三次』歌川広重

伊勢山皇大神宮 創建 150 年記念事業



伊勢神宮より譲与された社殿を移築する御本殿が、平成 30 年 10 月に竣工後、令和元年 5 月 15 日に初めての例祭を迎えます。

これよりは境内整備を始め、令和 2 年に迎える創建 150 年の奉祝行事を進めて参ります。

皆様からの御奉賛をお願い申し上げます。

尚、記念事業奉賛会三級有功以上の方には、今後 20 年間「正月期間」「例祭」「新嘗祭」「節分祭」の際に提灯（名入）を掲げさせて頂きます。

横濱鎮守山神宮 伊勢大神宮



現本殿（平成 30 年竣功）



旧本殿（昭和 3 年竣功） 清水建設株式会社提供

創建 150 年 記念奉祝行事

横浜港の開港後、日本中の商人と諸外国民で横浜は大いに賑わい、多種多様な文化が入り組んでいました。このような時に皇室を中心とし、伊勢神宮の大神様が人々の心の拠り所となるよう当宮は創建され、当時の奉祝行事は日本一の祭りと言われていました。

横浜と共に時を刻み、**令和 2 年**に当宮の創建 150 年の佳節を迎えます。変えてはならない日本独自の伝統文化を通して、創建当時にも劣らず、「市民こそって」ご参加いただき、横浜が一丸となって横浜総鎮守の慶賀を一緒に御祝いできるよう奉祝行事を進めております。